# すなお

令和３年１１月号

## おやのことば

どうもならんから、前々もって知らしたる。一言の理は万言の理に当たる。理ばかりや。

明治三十年二月一日

会　長

私たちは日々生きる中に先に知らせて頂いているということがあります。大きな身上が起きる前には、小さな身上であったり事情、または身近な方々に見えてくる様々は事が本当はあるのです。

これは私たちの親である親神様が、先々に起こってくるであろう大きな落とし穴に落ちてしまわないように親心で知らせて下さっているのです。ただ、それは言葉を通して教えて下さるのではないだけになかなか分かりにくいのです。でも前触れがあるのだと思って生きていくのと、全く考えないで生きていくのでは生き様が変わってくると思います。

健康診断でちょっと問題があるので「運動して下さい。」とか「甘い物を控えて下さい。」って言われるのは、先が見えているからの前もっての注意です。しかし（まあ、これくらいいいでしょう）と聞き流して生活を変えなければ予想通りの病気を発症してしまうのも当然の事です。

子供可愛い上から教えて頂くメッセージにまずは気付き、そしてすなおに受け取り心の切り替えが出来たら助かる道も見えてきます。さあ、勇んでかかりましょう。

すなお（立教１８４年１１月号）

通　巻　No.736
発行所　天理教瀬戸路分教会
794-0007　今治市近見町4-5-10
☎　0898-23-5004
FAX　0898-23-5123
発 行 日　2021.11.16
責任者　二 宮 英 治

## 感謝でいっぱい

野間龍二

修養科生活も２か月を迎え、もう十日が過ぎました。変わらず、皆さんから、過分の世話どりをしていただき、目標に向かって明るく楽しく過ごさせていただいております。日々、心に修めさせていただくことばかりで、どんどん心が軽くなっており、感謝でいっぱいです。

先日、「龍さんの感話は、感動して心揺さぶられる。」との感想に感激し、喜びに満ち溢れておりました。最近では、私の話が聞きたい。その上、相談に乗っていただきたいと言っていただく方々まで現れ、朧げであった夢、目標が前進して行く気持ちになり、親神様、おやさまには、感謝しかありません。

皆さんの応援の賜物です。ありがとうございます。

## 感謝を言葉に

椿　信代

先日久しぶりに母親と会いました。去年の結婚式に来てくれて以来約1年ぶりで、コロナのせいとはいえこんなに長期間会わなかったのは初めてかもしれません。もちろん電話やラインはしていましたがやっぱり顔を合わせて話したり、同じ空間を共有できたのはとても楽しくしみじみと嬉しかったです。

今回、母とは一緒におぢばへも帰り参拝させていただきました。その後関西の弟妹たちも久しぶりに集ったのでなんだか教会にいた頃を思い出すような気持ちでした。あの頃からするとみんな成長し、それぞれの環境も全く違います。でもこうして私たちが無事に大人になれたのも本当に親のおかげで、親側の気持ちが多少なりとも分かる歳になったからには感謝の言葉をもっと伝えなくてはなと感じました。

毎日神様へお礼を申すのと同じく、両親へも家族へも感謝を言葉にして伝えていきたいです。そしてコロナが収まって早く気兼ねなく会える日が来ることを願っています。

### 編集後記

今年も残すところ1か月ちょっととなりました。この時期になると朝晩かなり寒くなってきていますので、風邪などひかないよう気をつけたいです。もうそろそろ年賀状の準備を始めようかなと思う今日このごろです。（編集者Ｋ）

## 三つの「元」

深谷善太郎著「だけど有難い」より転載

「幸せの元」は何でしょう。お道を信仰している方であれば、お金や物の豊かさではないということはお分かりだと思います。実際、お金や物の豊かさというのは、「幸せの元」ではなくて「生活の元」です。全くないと生活できませんから、お金も物も必要です。では「幸せの元」とは何か。いったい人間は、どんな時に幸せを感じるのでしょうか。

あるアンケート調査によれば、「自分が人から愛されている、大切にされていると感じたとき」「人から信頼されている、頼りにされているというとき」「世の中、社会のために役に立っていると感じたとき」という答えが多いそうです。これらはいずれも､人のために動いたときに得られるものばかりです。自分が何もしなければ、人から愛されたり、大切に扱われたり、信頼されたり、頼りにされたり、また世の中や社会の役にたったりすることはありません。「人たすけたら我が身たすかる」という教祖の教えは、このことからもよく分からせていただけます。「幸せの元」は、人をたすけるところから生まれるのです。

もう一つ大事なものがあります。それは「命の元」です。これは誰しも察しがつくでしょう。健康であるということです。

この「命の元＝健康」というものは、自分ではどうにもなりません。これをご守護いただこうと思ったら、どうすればいいのか。それは「幸せの元」である、人をたすけること、そして「生活の元」である、お金や物を人だすけに使わせていただくことです。普通、人間は、自分さえ良ければいい、今さえ良ければいいと考えて、「生活の元」であるお金や物を自分のために使うのです。そうではなく、人のために使わせていただくのです。

「生活の元」に困っている、生きていくのが大変という人は、どうしたらいいのか。「命の元」である健康を頂戴しているこの体を使って、人をたすけさせていただく。そうすることによって、生きていく糧をお与えいただけるのです。

こう考えると「幸せの元」「生活の元」「命の元」というのは、それぞれ大いに関わりのあるものです。そして、おたすけの実践こそ、そのすべてをいただく本元なのです。

## 教会ニュース

●10月8日、宇和島市在住のようぼく大塚享子さん（享年80歳）が出直しされました。ずいぶん感染者も減ってきている状況ではありましたが、身近な親族のみの葬儀をされました。

●10月24日、田中照子さんの50日祭、合祀祭を会長祭主のもと自宅においてつとめられました。